

令和5年度

地域学校協働活動

実践事例集



宮城県大河原教育事務所

発刊にあたって

3年間にわたり、私たちの生活の在り方に多大な影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症ですが、感染症法上の位置付けが5類へと移行されたことにより、少しずつ以前の姿を取り戻しつつあります。学校教育・社会教育ともに感染予防に十分配慮しながら、少しずつ人と人とが触れ合う活動が行われるようになり、児童生徒や地域住民の皆様の笑顔あふれる姿が見られるようになってきました。ですが、この期間内に生じた対面でのかかわりの制限は、地域学校協働活動の実現に大きな影響を与えました。ウィズコロナの現代は、デジタルツール等の有効活用と、これまで培ってきた直接体験で得られる学びの形を、より一層、融合・深化させる時代へと変わり、新たなステージに移行してきたように感じます。

このように新たな時代への変化が求められる状況の中、大河原管内2市7町教育委員会と仙南地域広域行政事務組合教育委員会、管内各小・中学校の皆様におかれましては、日頃より学校教育活動及び地域学校協働活動の推進に御尽力いただきありがとうございますことに感謝申し上げます。また、各市町における確かな実践を御紹介いただき「地域学校協働活動実践事例集」が発刊できましたこと、大変喜ばしく思います。

令和5年6月16日に閣議決定された新たな教育振興基本計画には、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げ、5つの基本的方針と16の教育政策の目標、基本施策及び指標が示されました。その中で「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」も基本的方針の一つに位置付けられ、「地域学校協働活動」の重要性はますます高まっています。

「地域学校協働活動」とは、地域の様々な立場の住民が参画し、学校を含めた地域全体で子供たちの学びや成長を支える活動です。多様な個人が幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じることができる取組をとおして、学校や地域でのつながりのよさや意義を実感することができれば、日本社会に根差した調和と協調に基づくウェルビーイングの実現が可能となるでしょう。この「地域学校協働活動実践事例集」には、各市町教育委員会と仙南地域広域行政事務組合教育委員会が取り組んでいる事業実践の事例や、各学校が実践している地域と連携した教育活動の様子を掲載しています。管内における豊かな地域社会づくりへの取組や、子供たちの笑顔や学びの充実を図る事例が数多くまとめられておりますので、ぜひ御高覧いただくとともに、今後の活動の参考にしていただければ幸いです。

結びに、本冊子を発刊するに当たりまして、御協力をいただきました管内各教育委員会の皆様及び関係各位に心より感謝を申し上げ、発刊の言葉といたします。

令和6年3月

宮城県大河原教育事務所
所長 本田 史郎

目 次

発刊にあたって 大河原教育事務所長

- 白石市教育委員会 白教委 1～4
実践紹介（団七踊り引継ぎ式） 白教委 5～6
学校での取組紹介（14校） 白教委 7～10
- 角田市教育委員会 角教委 1～4
実践紹介（ふるさと角田学「縄文土器づくり」） 角教委 5～6
学校での取組紹介（7校） 角教委 7～8
- 蔵王町教育委員会 蔵教委 1～4
実践紹介（蔵王を知る研修） 蔵教委 5～6
学校での取組紹介（8校） 蔵教委 7～8
- 七ヶ宿町教育委員会 七教委 1～4
実践紹介（そばの学習） 七教委 5～6
学校での取組紹介（2校） 七教委 7
- 大河原町教育委員会 大教委 1～4
実践紹介（地域伝統文化学習「さんさ時雨」体験） 大教委 5～6
学校での取組紹介（5校） 大教委 7～8
- 村田町教育委員会 村教委 1～4
実践紹介（総合文化部支援活動） 村教委 5～6
学校での取組紹介（4校） 村教委 7
- 柴田町教育委員会 柴教委 1～4
実践紹介（槻木歴史を未来へつなげよう） 柴教委 5～6
学校での取組紹介（9校） 柴教委 7～9
- 川崎町教育委員会 川教委 1～4
実践紹介（届けよう 川小太鼓！） 川教委 5～6
学校での取組紹介（5校） 川教委 7～8
- 丸森町教育委員会 丸教委 1～4
実践紹介（青葉の田植え踊り） 丸教委 5～6
学校での取組紹介（3校） 丸教委 7
- 仙南地域広域行政事務組合教育委員会 広 域 1～2

白石市の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

平成24年度より家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動を中心に白石市協働教育推進事業を推進してきた。平成29年度より市の「放課後子ども総合プラン」に基づき「子どものため」「共に学び育つ（パートナーシップ）」をコンセプトに市民による市民のための地域学校協働活動として着実に成果をあげてきた。

令和2年7月には、下記に示すとおり地域学校協働本部を設立し、地域の支援団体及び個人とのネットワークの拡充を図り、より充実した活動を推進できるよう目指している。

また、小原小中学校に学校運営協議会を設立し、地域と一体となった学校運営と支援体制が整い、より充実した支援が可能となっている。

さらに、重点事業として、講話ボランティアのデータベース化及び学校と支援者間の関係性の強化を図るための交流や広報活動を推進している。

2 地域学校協働本部について

令和2年7月に白石市地域学校協働本部を設立。

本部には、本部長、副本部長、統括コーディネーター、地域コーディネーター（4名）、推進員（12名）地域連携担当者（各学校1名）を置き、さらに、各単位PTAやまちづくり協議会等にも連携担当者を置きネットワークの充実を図っている。

また、ボランティア単独の組織として「読み聞かせの会」、「登山ボランティアの会」、「スキーボランティアの会」等がある。

3 事業紹介

（1）家庭教育支援

事業名	内 容	備 考
しろいし家庭教育支援チーム主催事業 「親の学びのプログラム」出前講座	しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」が講師となり、小学校で行われる一日入学説明会等の機会を活用し、未就学児の保護者向けに、また中学生には家庭科の授業の中で出前講座を実施した。 ・未就学児保護者対象 テーマ「子どもが小学校へ入学」 ・中学生対象 テーマ「親になるということ ～こんにちは！赤ちゃん～」	実施校 2校 ○未就学児保護者対象 ・大鷹沢小学校 ○中学生対象 ・白石中学校
学ぶ土台づくり親の学び研修会 ※宮城県主催・市教委共催事業	保育園、幼稚園の保護者を対象に、講師による講話を実施した。	実施園 1園 ・白石みのり保育園
子育て応援 ハッピータイム	親子ヨガ、ムーブメント活動等の親向けのワークショップを開催。同世代の子を持つ親同士の交流を図りながら、子育ての不安や悩みを解消し、親の学びに繋がっている。	会場：中央公民館 平日クラス：10回 土日クラス：4回

家庭教育支援者研修会	家庭教育支援者を対象に、講師による講話・ワークショップを実施。参加者同士の交流を育みながら、人材育成と家庭教育の推進を図った。	10月24日開催 19名参加
------------	---	----------------

(2) 地域活動支援

事業名	内 容	備 考
わんぱく教室	体験学習などを通じて、青少年の健全育成を図るとともに、個々の創造性や集団での協調性、自主性を養成し生活力を身につける活動を行っている。今年度も地域の方々の協力を得て、交流が深まる活動を行った。 【通年開催】ジュニア・リーダーと遊ぼう・わんぱく大冒険キャンプ・わんぱく食育教室・わんぱくりサイクル教室・わんぱく考古学教室・わんぱく防災教室・わんぱくクリスマス会	市内小学5・6年生対象(申込者22名) 中央公民館・市内畑・蔵王自然の家ほか
第46回 こどもまつり	野外活動・レクリエーション等を通して青少年の豊かな人間形成と相互の親睦交流を図る。シャボン玉・ペットボトルボウリング・人形劇・丸太切り体験等の遊びコーナーあり。	主催：白石市子どもまつり実行委員会・白石市・白石市教育委員会
ジュニア・リーダー 研修及び派遣事業	J・Lを対象に、子ども会の指導者としての知識や技術の習得を目指す。各地区の子ども会や児童館等の要望に応じゲームやレクダンス等を通しての青少年の健全育成を図る。	会場：中央公民館・蔵王自然の家・各地区子ども会等
第31回白石市生涯 学習フェスティバル 事業	市民総参加による事業を通年にわたり積極的に展開し、市民が生涯学習に接する機会を広く設け、「ひとづくり」「まちづくり」の推進を目的として行う。 ・白石城及び武家屋敷周辺に“白石を詠む”・新春囲碁・将棋大会・公民館まつり他	主催：白石市生涯学習フェスティバル実行委員会 会場：中央公民館・ホワイトキューブ・白石市内小中学校・白石城・武家屋敷他
「家庭の日」 推進事業	地域全体で家庭のもつ役割の重要性を再認識し、青少年の健全育成と非行防止の啓発を図る。毎月第三日曜日を「家庭の日」と定め推進。市内小中学生対象に絵画・ポスターを募集し作品展開催。入選作品で啓発ポスターを作成。	主催：生涯学習課・青少年のための白石市民会議



【わんぱく教室 食育教室】



【家庭教育支援者研修会】

(3) 学校教育支援

事業名	内 容	備 考
1 学校支援ボランティア派遣 (1) 登下校安全指導 (2) 部活動等の指導 (3) 自然体験活動 (4) 防災活動 (5) 環境整備 (6) 図書・読み聞かせ (7) 学習支援 (8) 地域理解 (9) キャリア教育 (10) 行事 (11) その他	学校からの支援要請に応じて、ボランティアを派遣する。 通年から月1程度、登下校時に小学校で実施 中学校でソフトテニス等の指導 登山8小中学校・スキー6小中学校 地域の消防団と協働し、放水・消火器体験 除草作業・校内清掃・ベルマーク整理 ・プール清掃・危険箇所点検 読み聞かせは、週1から月1程度 図書の整理から図書の案内・掲示等 家庭科支援（調理実習等）・水泳の指導・絵手紙 英語活動支援・稲作体験活動・グランドゴルフ指導 着付け教室・福祉体験活動・ものづくり体験活動 伝統文化体験（能楽堂での日本舞踊・茶道） 和太鼓活動、神楽指導、白石の歴史学習支援 地域探訪（逆さケヤキ） 白石和紙作り・講話・こけし絵付け体験 職場体験前に職業人による講話講師の派遣 講師等のデータベースの作成・配布 運動会・クリスマス会・豆まき・公園植栽活動支援等 賞状の浄書等・職員研修	白一小、白二小、越河小、大鷹沢小、深谷小 福岡中 大鷹沢小等 白一小、大平小、白川小、東中 白一小、白二小、福岡小 大鷹沢小、白川小、小原小中、越河小、深谷小、白石中 白一小、白二小、大平小、深谷小、大鷹沢小、白川小、小原中 可能な範囲で実施 東中 全小学校 白一小、白二小、大鷹沢小、小原小、福岡中 大平小 大鷹沢小、小原小中 白石中、東中 講話者募集中 第二幼稚園、小原小中 大平小、南小中
2 職場体験関係	中学校職場体験学習に当たり、市内事業所の受け入れ先リストの作成、新規の開拓、コロナ禍により受け入れの確認	全中学校（2学年）
3 研修活動	地域学校協働活動研修会・講話・情報交換 登山ボランティア研修会（南蔵王縦走6月3日実施）	12月15日開催 40名参加 ボランティア12名、教職員4名参加
4 広報活動	広報誌「清流」の発行 地域活動の紹介	幼小中に配布 公民館・ボランティアを通して回覧

(4) 放課後子ども教室

事業名	内容	備考
放課後子ども教室	放課後や週末等に小学校の余裕教室や公的な施設等を活用して、子供たちの安心・安全な活動拠点（居場所）を設けた。子供たちが地域社会の中で心豊かで健やかに育むことを目標に、地域住民の参画を得て様々な体験活動や交流活動等を実施した。 自由遊び・伝統行事体験・軽運動・絵本紙芝居等の読み聞かせ・運動遊び（ムーブメント活動）・造形活動・手作りゲーム	会場：各小学校の体育館や多目的室、地区公民館 実施学校 白一小（児童クラブ一体型） 白二小（児童クラブ連携型） 越河小
放課後子ども教室 スタッフ合同研修会	スタッフの人材育成のため研修会を行うとともに、悩みや課題の共有をするため情報交換会を年2回程度実施している。 昨年度に引き続き、研修会において、コロナ対策方法等の共有を行った。	会場：中央公民館



【白石第二小学校 放課後子ども教室】



【R5.12 講話・情報交換会】

4 成果と課題

(1) 成果

家庭教育支援については、今年度も「親の学びのプログラム」出前講座や「子育て応援ハッピータイム」を開催することで、将来親になる中学生への学び支援や親同士の交流を通して子育ての不安や悩みを解消するなど、親の学びに繋げることができた。

地域活動支援については、小学5・6年生を対象に「わんぱく教室」を開催するなど、様々な体験学習を通じて個々の創造性や協調性、自主性を育み、世代間の交流を深めることができた。

学校教育支援については、学校支援ボランティアや連携担当者等を対象に「講話・情報交換会」を開催し、地域課題や推進の方針等について共通の理解を図ることができた。

放課後子ども教室については、地域住民の参画を得ながら様々な体験活動や交流活動を実施し、子供たちの安心・安全な活動拠点を設けることができた。また、地域住民の参画により、地域の活性化や生きがいがづくりに繋げることができた。

(2) 課題

ボランティアの高齢化による後継者不足など課題はあるが、引き続き学校や支援者相互の理解の下、地域学校協働活動を推進していきたい。

また、地域資源をより一層活かした文化の発展や伝承に努めるため、地域学校協働活動の啓発活動とともに、支援者と学校との信頼関係の醸成を図るなど、地域学校協働本部や各種団体と連携・協力した支援体制の充実を図っていきたい。

白石市 白石市立大鷹沢小学校(総合的な学習の時間)「団七踊り引き継ぎ式」

○市町名 白石市

○学校名 白石市立大鷹沢小学校

○期 日 令和5年12月8日(金)

○内 容

総合的な学習の時間(4・5・6学年)

「団七踊り引き継ぎ式」

- ・大鷹沢地区の伝統芸能である「団七踊り」の伝承を通して、地域文化及び地域人の絆を大切にし、伝統を守ろうとする態度を育てる。
- ・6年生から4年生への伝統の継承を行い、異学年間の協働的な学習の構築を図るとともに、異学年交流により児童の主体性や思いやりを育む。

○講 師

白石市民謡民舞保存研究会

大庭 定男 氏(児童への励ましの言葉)

専念寺 住職

徳力 祐弘 氏(団七踊りの由来講話)

○児童の声

- ・ぼくは4年生の時、引き継ぎ式の日には学校を休んでいて、引き継ぐ役ができませんでした。今年は引き継ぎ式に参加できてよかったです。今度は伝統を守っていく立場になって、約40年続く団七踊りを守っていきたいなと思いました。

今度は踊りを教えたり広めたりする立場になります。大鷹沢小学校の伝統を、いろいろな人に広めていきたいなと思いました。

(5年 大槻 来叶さん)



- ・「団七踊り引き継ぎ式」を終えて、感じたことが2つあります。

1つ目は、6年生から4年生に、伝統がしっかりと引き継がれてよかったということです。引き継ぎ式当日は、4～6年生が全員そろって参加できて、6年生から4年生に、「剣」、「くさがりがま」、「なぎなた」が無事に引き継がれました。

2つ目は、団七踊りを踊っていて難しいと感じたことです。ぼくは団七役で、くさがりがま役と剣を交える場面があります。その時、次の動作に移る時のタイミングが難しいです。6年生になるまでに、完璧に踊れるようになりたいです。

(5年 遠藤 大翔さん)

- ・「団七踊り引き継ぎ式」を振り返って、5年生の3人には自信を持って踊りを引き継ぐことができると思いました。ぼくたち6年生から踊りの道具を引き継いで4・5年生が踊った時、しっかり踊っていたからです。宮城野役の人たちは、ぼくが4年生の時よりも上手だと思いました。細かい動きや団七役と信夫役と一緒に動く時のタイミングを合わせることができたら、4年生ももっと上手になると思っています。ぼくたちが先輩から引き継いだこの伝統を、これからも守ってほしいと思いました。

(6年 北本 悠真さん)

- ・「団七踊り引き継ぎ式」で、4・5年生が踊っているのを見て、うれしくなりました。先輩から引き継いだ伝統を、無事に後輩に引き継げたからです。もう一つうれしかったことは、4年生がぼくたちのように役になりきって踊っていたことです。ぼくたちが教えたように踊っていたり、アドバイスした所を1日で直したりしていました。こんなに早く覚

えられるとは思わなくて、おどろきました。来年の5・6年生にも、団七踊りを大切に踊ってほしいです。

(6年 菊地 蒼空さん)



- ・ 「団七踊り引き継ぎ式」では、無事に引き継げるか少し心配ではあったけど、4・5年生の踊りを見て「無事に引き継げたな。」と思いました。私は司会を担当していて大変だったけど、しっかりと進行できてよかったです。

後輩たちには、しっかりと役になりきって、責任を持って踊ってほしいです。私たちが卒業した後も、団七踊りを引き継いで、引き継がれて…を繰り返して、大鷹沢小学校の伝統が100代先も続いてほしいと思いました。

(6年 八島 奈美さん)

○講師から

今から300年前ぐらいの出来事です。昔なら、お侍に手打ちにされたら泣き寝入りする以外なかった時代に、娘の無念をくんで仇討ちをさせた殿様も偉かったと思います。宮城野と信夫、2人の娘たちも、相手をただ恨むのではなく、親に対する敬愛と団七という侍への敬意を忘れず、仇討ちが成功した後には父母だけでなく団七の墓参りもしていることからその偉大さが伝わってきます。2人のこの親孝行の心を今も大鷹沢小学校の子供たちに引き継いでもらい、また、先輩から後輩へ繋がる絆を大切にしている事に感銘を受けています。

(徳力 祐弘 氏)

毎年参加させてもらっているけれど、本当に6年生の踊りはすばらしいと思っています。そして、何より、下の学年の4年生がそれをしっかり引き継いでいるところを見せてもらいました。これからも、この踊りを繋いでもらって、地域の伝統文化として大切にしていってほしいと思います。がんばってください。

(大庭 定男 氏)



○教職員の声

本校児童は低学年のうちから先輩の踊りを見学したり、地域学習で「白石噺」発祥の地である八枚田を訪れたりして「団七踊り」への関心を高めていきます。4年生の後半になると、いよいよ先輩から団七踊りを引き継ぐ時期となり、「伝統を引き継ぎたい。」「先輩のように踊りたい。」という思いが練習の様子にも表れます。6年生は引き継ぎ式を最後に、2年間使った衣装や踊りの道具を後輩に引き継ぐため、真剣に練習に付き合います。「団七踊り引き継ぎ式」を迎えるまでに、児童は数年をかけて地域の事や団七踊りの由来を知る学習を行い、その過程を経て先輩から踊りを教えてもらいます。引き継ぎ式は毎年の行事ですが、児童と地域との関わりや伝統を大切にしているからこそ「先輩から後輩へ」という絆が生まれるのだと思います。

(5・6年担任 佐藤 由那 先生)

○教育事務所から

地域の伝統芸能の継承をとおして、大切な思いや志も引き継がれているすばらしい取組が、今後も続いてほしいと願っています。



白石市立白石第一小学校



〒989-0259 白石市字半沢屋敷前2番地2
TEL 0224-25-3259
FAX 0224-24-2686

児童数 342人
P会員数 255人

交通安全教室



1年生は、地域の皆さんに見守られながら交通ルールを覚えます。

歴史学習



6年生が、市内在住の学芸員に白石と金津の歴史の関わりについて教わります。

学校安全委員会



児童会代表が、地域の方と一緒に学校安全教育の取組について話します。



白石市立白石第二小学校

児童数 541名
P会員数 419名

すすんで学びよく考える子 やさしくおむいやりのある子 たくましく心と体をきたえる子



〒989-0226 宮城県白石市字白石沖29
TEL:0224-24-2676 FAX:0224-25-3578

アルカス隊



白石警察署と連携して昨年度結成した「白石ニ小アルカス隊」では、校区の安全点検やお家の清掃活動への参加、防犯を呼びかけるテッシュ配りなど、児童だけでなく地域のママの安心・安全に向けた取り組みを行っています。

城下町クリーンアップ作戦



城下町白石市の市民としての自覚を高めるとともに、郷土愛の醸成を目的として、白石城周辺の清掃活動を行っています。ごみの分別までしっかり児童が行うことで、SDGsの意識も高まっています。

国際交流



オーストラリアのカウラ校とオンラインで交流を行いました。5・6年生が給食の学習で調べたことを伝え、カウラについての発表を聞きました。日本とは違う文化をもつ国を知り、日本の良さ改めて気づく良い機会となっています。



白石市立越河小学校

体罰・買収・長年の33学校一入一校を誇る33町が



創立150周年

〒989-0113 宮城県白石市越河字丑山下44
TEL 0224-28-2008 FAX 0224-28-2048

児童数 35名
P会員数 27名

越河学園株式会社(ワイパワーク) スマイルフラワープロジェクト

スマイルこぼるプロジェクト



越河や白石の歴史や文化を学び、シビックプライドを醸成し将来の夢や目標を育む。



みどりの少年団募金を資金に、全校児童で花を育て、メッセージを添えて地域のお年寄りに届けた。



「つながる越河の会」と連携し、ころ棒を作り、地域のお年寄りに届けた。



白石市立大平小学校



〒989-0217 白石市大平森台字楳現山1番地
TEL 0224-25-3709 FAX 0224-25-3745

児童数 79名
P会員数 62名

地域学校協働活動



【花いっぱいクリーン大作戦】
地域にプランターを置き、定期的に花の世話をし、定期的な花の世話をします。



【米づくり活動】
3・4年生が地域の方と一緒に田植えから収穫までの稲作に取り組む。



【読み聞かせ】
白石市図書館と連携しボランティアによる読み聞かせを行っている。



【逆さヤマギ探訪】
地域の方の案内で県の天然記念物「逆さヤマギ」を目指して登山する。



たてわり異学年交流



全学年たてわりとし、様々な活動を行います。たてわり外遊び、たてわり清掃、たてわり運動交流、たてわり安全点検等、児童同士の主体的な活動を学校行事の企画・運営に取り入れています。

志教育～夢プロジェクト～



「夢カード」による、児童一人一人の将来に向かって学ぶ意欲の尊重、「行きたい学校づくり」の推進、「こんな学校にしたいカード」による行事等活動の児童主体の運営を行います。

地域伝承活動～団七踊り～



地域に伝承されている「白石仇討ち斬」の団七踊りの学習と、踊りの伝承による異学年交流をとおして、地域を大切にし、人との繋がりを大事にする態度を身に付けさせます。



【動くジャンボカルタ取り大会】
46年の伝統ある行事です。



【白川ウォークラリー】
学区の歴史や施設を全学年で学びました。



【大豆の栽培・豆ぶち体験】
地域の方に教えていただきました。



地域にあるこけしの産地、弥治郎地区のこけし工人から毎年6年生が指導を受け、こけしの給付けを体験している。作品は、全県こけしコンクールの会場に展示された。



読書活動の推進を図るために、図書ボランティアの方々に毎週1回来ていた。読み聞かせや図書室の整備により、本に親しむ児童の育成を目指している。



自然豊かな環境の中、地域学校協働活動として、地域ボランティアの方々に協力をお願いいただき、登山(5年)や雪遊び(1年)、スキー教室(4年)等、地域素材を生かした活動を実施している。



地域の保存会の方に指導を受け、学習発表会や誓水園でその成果を発表した。



学区の郷土史家から白石の歴史を学び、市内を探訪してふるさとのよさを実感した。



地域の方から稲作の指導を受け、米の生産や販売の新聞作成と発表を行った。



中学校併設型小学校

白石市立小原小学校 (小原学園)



〒989-0233

宮城県白石市小原字伊勢原道上1番地

児童数 10名

☎0224-29-2026, 2027

FAX 0224-29-2057

P会員数 8名

地区清掃活動



自然やふるさとを大切に
心を育てるねらいのもとに、縦
割り活動で地域の施設(材木港
公園・スパッシュパークなど)の
清掃活動に取り組んでいます。

ゲートボール



「ゲートボール」に挑戦しまし
た。講師は地域で熱心に活動さ
れている愛好会の皆様です。手
取り足取り、丁寧に教えてくれま
す。

総合「ざいもくわ」



「小原の自然環境」をテーマ
に水・森・土を1年ごとのサイク
ルで探究活動を行っています。
小学5年生から中学1年生の合
間で進めています。

みんなで遊ぼう会



保護者や地域の方々を招待
し、自分たちで手づくりしたおも
ちゃで楽しんでもらいます。自
分たちも楽しみながら交流を深
めています。



白石市立白石中学校

生徒数 327名

P会員数 309名



〒989-0248 宮城県白石市南町1丁目2-79

電話番号 0224-25-3363 FAX 0224-25-3386

ボランティア活動



地域のボランティア活動に参加し、お掃除
を行った。

伝統産業体験



地元の企業と連携し、2学年を対象に
伝統産業を体験した。

PTAとの連携



PTA主催で、生徒と保護者が一緒に学
ぶ講演会を行った。



白石市立福岡中学校



〒989-0232 宮城県白石市福岡長袋字山ノ下25

電話 0224(25)3357 FAX 0224(25)3508

生徒数 92名

P会員数 86名

志教育「福中コラボ」を つくらせてもらう



自分たちの目線から見た地域のよさを積
極的に発信しようと、気に入った場所や物
の写真を集め「福中コラボ」を制作しま
した。市内の駅や小学校、福祉施設、公
共施設など計30ヶ所に贈りました。

スクールバス生徒 避難引渡し訓練



暴風雪のため行く手を阻まれ、スクール
バスが先に進めないという想定で、地域の
の方々との協力のもと、大綱担い手センターま
で避難し、保護者へ児童・生徒を引渡す訓練
を体験しました。

福岡中学校区 地域安全児童会生徒会



地域連携・小中連携の観点から、地域住民
の方や小中学生が交流することを通し、防災
意識を高めるとともに、将来積極的に地域に
貢献しようとする態度を育みました。



白石市立小原中学校【小原学園】



〒989-0223 白石市小原字伊勢原道上1番地

TEL 0224-29-2027 FAX 0224-29-2057

【生徒数】9名 【P会員数】8名

【学校教育目標】

ふるさとを誇りに思い 心豊かで たくましく かしこい 児童生徒の育成

地域と協働した奉仕活動



小原小学校との合同総割りでの
奉仕活動で、地域の施設(スパッ
ッシュランドパーク・材木岩公園など)
の清掃活動や植栽活動に、地域の
の方々と協働して取り組んでいます。

地域の伝統文化「弓道」



保健体育科の武道では「弓道」を
とりあげ、市内の外部講師や小原弓
道会の指導のもと、年間10時間
の授業を行っています。また、今年度
より弓道部を創設しました。

総合「ざいもくわ」



地域の人材・資源の活用を念頭
に、小学5年生から中学1年生の3
年間を見通し、地区内の自然環境
(水・森・土)をテーマとした総合
的な学習に取り組んでいます。

白石市立東中學校



令和5年度
東中学校テーマ
『志動, 考動』
～志と自主性を育てる学校～
令和の学びを実践し、新しい自分、
新しい夢に出会い、夢を志に高め、
高め、志を形にする



学校から望む巖手通峰

〒989-0213 白石市大鷹沢三沢字熊野堂6番地3

TEL:0224-25-5575
FAX:0224-25-5623

生徒数 311名
P会員数 291名



海外中学校とのオンライン交流
海外の中学生と英語で交流し、互いの文化について理解を深めます。



立志式
将来への自立を目指し、自己と向き合い、目標を持って努力する態度を育てます。



孫の手づくり
地域の方を招いて、孫の手の作り方を教わり、伝統について学びます。



ゆかた着付け教室
ゆかたの着付けや所作を体験し、日本の伝統文化を学びます。

白石市立白石南小学校・白石南中学校 (白石きぼう学園)



〒989-0112

宮城県白石市越河平字平合 23-1

TEL 0224-28-2013

FAX 0224-28-2016

全校児童生徒数：19名

「自分のペース」を最大限尊重

- 登校時刻：9時20分
- 下校時刻：14時50分
- 授業：午前3時間・午後2時間
- * 授業中のクールダウンもOK
- * 別室や図書ブースなどでの気分転換が可能



「個別な学び」で基礎学力の保障

- 「白石タイム」の実施
- ・ 週4時間設定 (小2は週3時間)
- ・ 個々の状況に合わせた学び進しの時間
- ・ 「未学習」や「苦手内容」に対応



学校内外での豊かな体験活動の機会を確保

- 児童生徒の興味・関心に基づく探究活動の時間
- ・ 総合的な学習の時間を拡充し「夢スタジオ」を週3時間設定
- ・ 興味・関心に基づき自分のテーマにじっくり取り組み、得意を伸ばす
- 人との関わりを重視した活動の導入
- ・ 「探究の対話 (p4c)」の導入
- ・ 食を主とした地域との交流による活動の実施
- 校外体験学習の導入 (年3回程度)
- ・ 児童生徒自らが計画を立て実施する体験活動の実施
- ・ 地域や企業、協力団体等の力を導入した体験活動の実施



角田市の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

角田市の地域学校協働活動では、地域と学校が連携・協働して地域全体で子供たちの成長を支え、育成することを目的とし事業を展開している。令和5年度は特に学校支援ボランティア派遣の体制を整え、学校教育支援活動の充実を図ることに注力して事業を展開している。

2 地域学校協働本部について

令和5年7月に角田市地域学校協働本部を設置した。本部は以下の委員で組織している。

- ・小中学校長の代表
- ・地域学校協働活動推進員
- ・地域連携担当教職員（各学校1名）
- ・地域の関係者（6名）

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内容	備考
「ふあみふあみ」 (家庭教育支援事業)	活動をとおして親子の愛着形成を促進するとともに子育てについて「気づき」を得られるような場を提供する。 「キッズパティシエ教室」 ①アイシングクッキーを作ってみよう ②ハロウィン料理を作ってみよう ③クリスマス料理を作ってみよう	【対象】未就学児とその保護者 【会場】角田市市民センター 角田市スポーツ交流館
「子育て遊びのMARUCHE」 (家庭教育支援事業)	親子の運動遊びについて学ぶ機会をつくることで、子供の体力向上や子育ての仲間作りを支援する。また、子育て支援課等と連携し、育児相談や子供の発達に応じた運動遊びのアドバイスを実施する。	【対象】0～2歳児とその保護者 【会場】角田市スポーツ交流館
家庭教育学級	市内保育施設で行われる、子供の基本的なしつけや親の役割等の学習に対し支援を行う。	【対象】未就学児とその保護者 【会場】市内保育施設（全6施設）



【ふあみふあみ】



【子育て遊びのMARUCHE】

(2) 地域活動支援

事業名	内容	備考
ジュニア・リーダーの育成	<p>子ども会活動に必要な技術・態度等について学習し、積極的に活動できるリーダーを育成する。</p> <p>①定例会（年10回） ②「宇宙っ子まつり」へ参加 ③ジュニア・リーダー自主研修会 ④パフとあそぼう会（6月、12月） 小学生を対象に異年齢集団での遊びを教えている。 ⑤インリーダー研修会 ⑥栗山町・角田市姉妹都市子ども交歓の集い「子ども交流会」へ派遣 ⑦角田市子どもフェスティバル参加 ⑧角田駅前マルシェへ派遣 自治センターのイベントの手伝い ⑨ジュニア・リーダー初級研修会 ジュニア・リーダー初級者としての研修を行い、資質向上を図る。</p>	<p>①【会場】角田市市民センター ②【会場】台山公園 ③【会場】南蔵王野営場 ④【会場】かくだ田園ホール ⑤【会場】南蔵王野営場 ⑥【会場】角田市スポーツ交流館 ⑦【会場】かくだ田園ホール ⑧【会場】角田駅前広場 ⑨【会場】角田市市民センター 【対象】市内の小学6年生、中学生</p>
角田市子どもフェスティバルの開催	<p>角田市子ども会育成会、角田市教育委員会の共催事業。地区子ども会等が設けた遊びのコーナーや各種体験コーナーをとおして、異年齢集団や異世代間、親子の交流の場を提供する。</p>	<p>・来場者 254名</p>
角田祭ばやし講習会	<p>郷土芸能の伝承発展と子供の情操を養うために、角田自治センターと角田祭ばやし保存会が連携して実施している。今年度は8月の「かくだ牟宇姫夏まつり」で演奏を披露した。</p>	<p>【主催】角田自治センター 【会場】かくだ田園ホール 【対象】角田地区の児童生徒</p>



【ジュニア・リーダー自主研修会】



【角田市子どもフェスティバル】



【角田祭ばやし講習会】

(3) 学校教育支援

事業名	内容	備考
学校支援ボランティアの派遣	<p>学校の支援要請に応じて、学校支援ボランティアを派遣する。</p> <p>この活動は、地域と学校が連携・協働して、幅広い地域住民の参画により、地域全体で子供たちの成長を支えるとともに、地域の人と人とのつながりをつくることを目的としている。</p> <p>①読み聞かせ ②給食指導補助 ③ミシン指導補助 ④習字指導補助 ⑤戦争体験講話</p>	<p>・学校支援ボランティア登録者数 35名（12月末現在）</p> <p>①金津小学校（年間） ②桜小学校、北郷小学校、金津小学校 ③角田小学校、北郷小学校、金津小学校 ④角田小学校、角田中学校 ⑤北郷小学校、角田小学校</p>
キャリア教育の支援 職場体験学習 職業人講話	<p>①中学校職場体験学習の実施にあたり、受け入れ可能な市内事業所等のリストを作成し、その情報を学校に提供する。</p> <p>②学校から要請のあった職業分野について、事業所への依頼や連絡調整を図る。</p>	<p>①北角田中学校2学年 角田中学校2学年</p> <p>②角田中学校2学年 講師3名 北角田中学校1学年 講師8名</p>



【 読み聞かせ 】



【 給食指導補助 】



【 ミシン指導補助 】



【 習字指導補助 】



【 職場体験学習 】



【 職業人講話 】

(4) 放課後子ども教室

事業名	内容	備考
放課後子ども教室	<p>地域の方々の参画を得て、子供たちとともに勉強やスポーツ・文化活動による地域住民との交流を通じて地域の世代間交流及び地域活性化の一助とする。</p> <p>①学習サポート（毎月曜日） ②花植え、野菜づくり ③夏休み子どもイベント ④グラウンド・ゴルフ大会 ⑤料理教室</p>	<p>【主催】 ①～④：小田自治センター ⑤：小田地区振興協議会</p> <p>【場所】小田自治センターほか</p> <p>【対象】地区民全般</p>



【学習サポート】



【野菜づくり】



【グラウンド・ゴルフ大会】

4 成果と課題

(1) 成果

①家庭教育支援

- ・家庭教育支援事業「ふあみふあみ」の他、「子育て遊びのMARCHE」を開催し、親同士が交流する場を設け、家庭教育支援チームや、保健師、運動遊びの指導員と共に、気軽に行える保育相談や年齢に応じた運動遊びのアドバイスを実施することができた。

②地域活動支援

- ・今年度はコロナ禍で停滞していたジュニア・リーダーの派遣依頼が来るようになり、活躍の場が増えた。また、この実践の場をとおして、ジュニア・リーダーの資質向上を図ることができた。
- ・角田市子どもフェスティバルでは、出店した地区子ども会育成会の児童やジュニア・リーダーの活躍の場として充実したものとなった。

③学校教育支援

- ・学校支援ボランティア登録者一覧を整備し、学校からの派遣依頼を受けて学校支援ボランティアを派遣する体制を構築することができた。
- ・職場体験学習の受け入れ可能な事業所リストを学校に情報提供することができた。また、職業人講話では、学校から要請のあった職業分野について、事業所への依頼や連絡調整を図ることができた。

(2) 課題

- ・学校支援ボランティア派遣やキャリア教育支援において、学校の要望に応えられる人材や受け入れ事業所の更なる確保に努め、支援体制の強化を図っていきたい。

角田市 角田市立横倉小学校 「ふるさと角田学(縄文土器づくり)」

- 市町名 角田市
- 学校名 角田市立横倉小学校
- 期 日 令和5年9月4日(月)
- 内 容

総合的な学習の時間(6学年)

「ふるさと角田学(縄文土器づくり)」

- ・縄文時代の歴史を知り、縄文土器の作り方を学ぶ。
- ・学校は横倉自治センターと連携し、横倉地区の文化財や地元に伝わる食文化などを活かした多様な体験学習を「ふるさと角田学」として実施している。

○講師

角田市郷土資料館 調査員 阿部 直希 氏

○指導補助

角田市郷土資料館 副主幹 我妻 一宏 氏
横倉自治センター 職員



○児童の声

- ・ぼくは、縄文土器を初めて作りました。縄文土器を作るときには、まず、土器の底を作りました。1.5cmくらいの厚さの円(底)を作るのですが、簡単そうに見えて、すごく難しかったです。次に、粘土でひもを作り、どんどん底から積み上げていきます。積み上げるときも、形を整えながら行う作業が大変でした。最後に、文様をつけました。文様は、縄やくしなどを使ってつけました。大変だったけど、うまく土器を作ることができて良かったです。

(6年 高橋 光栄さん)



- ・土器作りで楽しかったことは、土器の形を粘土で作ったことです。土器を作るときに、粘土でひもを作り、一段一段積み重ねていきながら作るということを初めて知りました。工夫したところは、土器にひびが入らないように、表面をきれいにしながら作ったことです。焼いたときに割れないように、土器(粘土)の中に空気が入らないように作ることも気を配りました。土器には、自分の好きな模様を入れることができました。初めて作った土器が、上手にできて良かったです。(6年 佐藤 清美さん)

- ・土器作りでは、初めて知ることがたくさんありました。1つ目は、土器の種類です。深鉢形、鉢形、台付形、壺形、注口の5つの代表的な形があることが分かりました。2つ目は、文様の種類です。縄やくし、貝殻などを使って文様を付けることが分かりました。ぼくも自分で作った土器に、角田市郷土資料館の方が持って来てくれた様々な道具を使って文様を付けました。文様を付けるときには、土器が壊れないように、ゆっくり押しながら付けました。楽しかったです。(6年 菊地 雪斗さん)

- ・土器作りでは、たくさんのお話を学ぶことができました。1つ目は、土器の種類です。5種類以上あり、とても驚きました。土器は、煮炊きをする鍋や、食べ物を入れて置く食器としても使われていたりすることを知ることができました。2つ目は、土器の作り方です。角田市郷

土資料館の方に説明していただいた後に、実際に土器作りをしました。まず、土器の底を作り、次に粘土ひもを積み重ねながら作ることが分かりました。3つ目は、文様の付け方です。昔の人たちは、縄や木の枝を使って文様を付けていたことを知り、驚きました。

(6年 佐藤 陽菜さん)

- ・ふるさと角田学「土器作り」では、縄文時代の話や土器の利用方法について、角田市郷土資料館の方に説明していただきました。縄文土器は、食べ物を「煮る」ことに利用し、当時の人々の食生活を豊かにしたことが分かりました。土器作りでは、土器の底を作ることに苦戦しました。土器を支えるための大事な底なので、厚くて丈夫な底を作るために、時間をかけて作りました。いろいろな人が手伝ってくれて、うまく土器を作ることができました。

(6年 八島 大翔さん)



○講師から

平成16年から毎年、初秋の頃に横倉小学校、横倉自治センターが主体となり、ふるさと教室の事業の一環として縄文土器作りを横倉小学校の6年生の皆さんに体験していただいています。土器作りの指導を務めて3年目ですが、毎年子供たちの作る土器の特徴が変わり、その年のクラス内の雰囲気をあらわしているように感じます。

土器作り作業に入る前に縄文時代と土器について簡単に説明した後、土器の作り方や作る際の注意点などを説明し、土器作りを始めます。

空気が入らないように注意して粘土をこねた

り、丁寧に円形の底の部分を作っていたり、土器作りが早々に終わり土器の表面に縄や竹串などを使い模様を付けるところまで進むなどいろいろな子供たちがいましたが、真剣な顔はみんな一緒です。土器作りはなかなか骨が折れる作業ですが、一生懸命に土器を作っている様子が印象的でした。

ふるさと教室の縄文土器作り自体は20年近く続いていて、慣行となっています。縄文時代に思いを馳せ、縄文人たちの生活感を少しでも感じて土器作りをしてもらえればと思います。

(阿部 直希 氏)

○教職員の声

子供たちは、今回の「土器作り」を通して、机上で学ぶだけでなく、実際に土器を見たり作ったりするという体験から、より多くの学びを得ることができました。児童からも、土器の大きさ、文様のデザインや凹凸、色合いなどを実際に見て知ることができてよかったという感想がありました。土器を作る中で、始めは簡単に作ることができると思っていた子供たちですが、実際に作るとなると大変な作業に驚いた様子でした。野焼きで割れない丈夫な土器を作るために、粘土の厚みを工夫したり、様々な道具から選んで文様を付けたり、こだわりが詰まった最高の土器を完成することができたようです。

「ふるさと角田学」は、角田市郷土資料館、横倉自治センターの方々の御協力により、様々な活動を行っています。今回の「土器作り」の他に、「横倉の古墳群について」「勾玉作り」「火起こし」「野焼き(土器)」など多くの学習する機会をいただいています。子供たちの学びのために、御準備や御支援いただき、心から感謝申し上げます。

(6学年担任 小松 美穂 先生)

○教育事務所から

横倉自治センターを中心に様々な人とつながりながら体験的に学ぶふるさとの魅力。地域の良さを十分に感じ取ることができる取組でした。

角田市立角田小学校

〒981-1505 宮城県角田市角田字牛館 41 番地
 Tel:0224 (63) 1144・1145 Fax:0224 (63) 0365
 児童数：530名
 P会員数：410名

【教育目標】
 夢と志を持ち、しなやかに
 たくましい児童の育成

夢 授 業	地域とつながる学習	地域の環境学習
地域の施設を学習に活用し、学びを広げたり深めたりする機会にしている。	角田市のキーワード「豆」「梅」「米」「姫」「夢」を総合的な学習の時間に取り上げ、地域理解を図っている。	土地改良区等の方をゲストティーチャーとして招き、毎年環境学習を行っている。
		

角田市立桜小学校



〒981-1522 角田市佐倉字小山78番地の1 児童数 146名
 TEL 0224-63-1150 FAX 0224-63-0346 PTA会員数 114名

地域と連携した農業体験活動	地域と連携した環境教育	地域と連携した読書活動の充実
 地域の農協青年部と連携して、田植え等の体験学習を行っています。	 地域の方々の協力を得て、EM発酵液等を作り、河川の水質改善に取り組みます。	 土地改良区や美里ネットの管轄から、角田の治水・用水路・水質について学んだり、実際に排水機場や排水機場を見学し学びを深めています。
		 更生保護女性会の皆さんによる読み聞かせをしていただいています。読書好きな子どもたちは毎日楽しみにしています。

角田市立北郷小学校

「一人一人の笑顔が輝く学校」を自指して



〒981-1524 角田市岡字阿弥陀入11-2
 児童数 145名 P会員数 120名 TEL 0224-66-2345 FAX 0224-66-3548

豊かな心の育成	創造性を育む多様な学び	たくましく健やかな体づくり	夢・志の育成
 調剤等の協力を得ながら、防災訓練を計画的に実施し、命の尊厳を大切にする指導を通して、命と人権を尊重する専業主婦と学級づくりに取り組んでいます。	 地域の様々な方々と授業を共にすることで、子供たちの創造性を育み、これからの社会生活を担うための実践・能力を育成するとともに、それを実践できる力を身に付けようとしています。	 長期マラソン等の継続により、取りこぼしなく取り組む運動を育成するとともに、地域の安全確保や警察官の資力の協力のもと、その成果を表彰する体育的行事を推進しています。	 学習に意欲的かつ学校として、JICA角田学習センターと連携し、学習についての学びに積極的に取り組むながら、夢と志を持つて自らの可能性に挑戦する子供たちの育成に取り組んでいます。

角田市立横倉小学校

学びの喜びと感動のある学校

〒981-1512 宮城県角田市横倉字杉ノ宮7
 TEL 0224-63-1146 FAX 0224-63-0325
 o-mail:yoakokurares@kukuda-c.ed.jp

校長 渡邊隆仁
 全校児童数 128名 P会員数 103名

開かれた学校づくりの推進
 地域と積極的な連携・協働

見守り隊の方々との対面式	ふるさと角田学（しめ縄づくり）	ふるさと角田学（にんにくづくり）
 子供たちの意下校を見守っていただいています。	 地域のボランティアさんからしめ縄づくりを学びます。	 講師の先生をお招きし、こんにゃくづくりを体験します。

角田市立金津小学校

高く 高く 翔け！
金津の空に

〒981-1502 角田市尾山字荒町125-1
TEL:0224-63-1143 FAX:0224-63-0364
E-mail: kanazu-es@kakuda-c.ed.jp
児童数 115名 PTA 会員数 88名



米を知る
地域の方との米作り



豆を味わう
納豆と味噌作り



伝統を受け継ぐ
田植え踊りと大森太鼓



豊かな心
ボランティアの読み聞かせ



地域性を生かし、地域に根差した教育活動



角田市立角田中学校

学校教育目標

自ら学び、自他を尊重し、
心身共にしなやかな 生徒の育成
～校訓～ 自学・協調・強靭



〒981-1505
角田市角田字牛館1-2
TEL 0224(63)1141
FAX 0224(63)0354
生徒数507名 P 会員数491名



志宣言

未来の自分の姿についてみんなに宣言します



職業人の話を聞く会

地域の職業人の話を聞き、仕事について考えます



保育実習

地域の保育所の協力のもと、子供たちとの



宇宙教育

JAXAの方から宇宙開発についてのお話をいただきます



角田市立北角田中学校



〒981-1521 角田市江原字御原50 TEL:0224-68-2323 FAX:0224-68-3384

生徒数 196名
P 会員数 178名
(令和5年5月1日現在)

地域と連携した教育活動（地域学校協働活動）

地域貢献活動【第1学年】



リバーサイドマラソンの準備と当日の運営に協力しました。

職場体験学習【第2学年】



市内の事業所にご協力をいただき、2日間の体験を行いました。

子育て体験学習【第3学年】



市の保健師さんから、命の大切さや子育てについて学びました。

あいさつ運動【生徒会】



更生保護委員会の方々と一緒にあいさつ運動を行いました。

蔵王町の地域学校協働活動

1 今年度の事業への取組について

蔵王町の地域学校協働活動では、地域・家庭・学校が連携し地域全体で子供を育てることを目的とし事業を展開している。令和5年度は特に毛筆指導、蔵王町の歴史の講話などの学習教育支援に力を入れた活動が主であった。

また、家庭教育支援では子育てサポーターチーム「すまいるハート」の関係機関と連携した家庭教育支援活動を行っており、託児の対応など積極的な活動を行っている。

2 地域学校協働本部について

現在、蔵王町には地域学校協働活動本部が設置されていないが、令和5年度よりコミュニティスクールが町内小中学校（計8校）に設置され、今後本部の設置も検討している。地域コーディネーターについては2名が常勤で配置されている。

3 事業紹介

(1) 家庭教育支援

事業名	内容	備考
子育てサポーターチーム「すまいるハート」の活動	今年度は講演会時や公民館講座における託児や昨年度に引き続き、子育てサポーターの活動周知のために手書きのメッセージカードを作成し、乳幼児健診の際に保護者に渡した。 また、会員の資質向上のために子育て支援施設への視察研修会も行った。 ほか、県主催事業への参加とチーム内での定例会（5回）を行った。	現在、27名の子育てサポーターが登録。
公民館講座「リフレッシュ♪ママカフェ」	今年度のママカフェは3回開催した。育児で毎日忙しい母親にリフレッシュしてもらおうと同時に学びの場を提供し、その間子育てサポーターは託児を行っている。	6月、11月、1月に開催。



【子育てサポーターの活動】

(2) 地域活動支援

事業名	内容	備考
ジュニア・リーダー事業・研修会	地域子ども会活動の支援及び地域活動の活性化を目指し、中高生を対象に研修会を実施し、次世代リーダーとしての知識や技術の習得を目指す。 イ) 初級研修会 【期日】6月24日(土)～25日(日) 【会場】松島自然の家 ロ) 子ども会活動や地域活動の支援 【参加】20名	町育成会との主催事業 イ) 子どもの理解、ジュニア・リーダーの役割について学び、必要な基礎知識や技術の習得を目指す。 ロ) 町内5つの支部が各地区児童館を拠点に児童厚生員の指導のもと地域活動に参画。
インリーダー研修会	小学4～6年生を対象に子ども会リーダーとしての知識や技術の習得を目指す。 【期日】8月26日(土)～27日(日) 【会場】松島自然の家 【内容】レクリエーション、海遊びほか 【参加】14名	町育成会との共催事業
世代間交流事業	各種団体等と共催し、広い世代の参加を呼びかけ、交流を深める取組みを実施。(開催) 円田地区モルック大会 【期日】11月26日(日) 【会場】蔵王町立円田小学校 体育館 【参加】36名 ほか、宮地区夏祭り・円田地区凧作り教室・円田地区凧あげ大会など	地区公民館・育成会・母親クラブ・PTA等と共催
蔵王町子ども会大会	子ども会会員、ジュニア・リーダー、成人指導者が共通の体験活動を通して、交流と親睦を深める。 【期日】10月29日(日) 【会場】ことりはうす 【内容】トレッキング、クラフト 【参加】20名	町育成会との共催事業
ざおうっ子伝承芸能発表会	民俗芸能について理解を深めるとともに、会員相互の交流と親睦を深める。 【期日】11月5日(日) 【会場】蔵王町ふるさと文化会館 【参加】81名	蔵王町子ども伝承・創作芸能推進協議会との共催



【ジュニア・リーダー活動】



【円田地区モルック大会】



【伝承芸能発表会】

(3) 学校教育支援

事業名	内容	備考
本の読み聞かせ	本好きな子供に育ててほしいという願いを込めて実施。読み聞かせをとおして、本との出会い、友達との共通体験を得ることが出来る。	町内全小学校で月1回～2回程度、読み聞かせボランティアを中心に活動。 【実績】(12月末現在) 支援件数：40件 支援者数：延べ149名
登下校指導・見守り	小学生登下校時に、児童が安全に登下校できるよう指導見守りを行う。	町内2校(円田小学校、宮小学校)区で実施。 【実績】(12月末現在) 支援件数：224件 支援者数：延べ249名
学習支援活動	町内の小中学校における学習支援(指導・補助)を行う。 【国語】毛筆指導、蔵王町に伝わる昔話 【社会】蔵王町の歴史について、蔵王町の産業について、蔵王町の公共施設について 【理科】流れる水のはたらき、地層の学習 【総合的な学習ほか】 福祉体験、地域を知る学習、田植えの学習、稲刈り、防災教室、さといもの植え付け栽培、熊の学習、施設見学ほか	町内全小中学校にて実施。 【実績】(12月末現在) 支援件数：41件 支援者数：延べ79名
校外活動支援	町内の小中学校における校外学習の支援(指導・補助)を行う。 登山指導 ほか	町内全小中学校にて実施。 【実績】(12月末現在) 支援件数：6件 支援者数：延べ13名
キャリア教育	中学生が町内の事業所等において職場体験を実施するに際し、事前学習として「マナー講座」、「キャリアセミナー」を実施。社会人との関わりを持つことで、将来の自分を深く考えるきっかけをつくる。	町内全中学校で実施。



【田植えの学習】



【キャリアセミナー】



【毛筆指導】

(4) 放課後子ども教室

事業名	内容	備考
宮地区 放課後子ども教室	児童の安全安心な活動拠点（居場所）を設けると共に、地域ボランティアからの協力を得て体験活動を提供している。 【期日】12月15日（金） 【会場】宮小学校 【内容】松ぼっくりを使ってのクリスマスツリー作り 【参加】25名	

4 成果と課題

(1) 成果

家庭教育活動支援では、子育てサポーターの活動周知のためにメッセージカードを作成し、乳幼児健診の際に保護者に渡した。育児の辛いことやストレスを一人で溜め込まないように、子育てサポーターという身近な存在が活動していることを知ってもらう良い機会となった。

地域活動支援では、行事をとおして世代間の交流を促すことができた。また、ジュニア・リーダー活動においては感染症の影響で活動を見合わせていた時期もあったが、活動が徐々に再開され、体験活動や創作活動を実施。意欲的に活動に取り組む姿が見られた。

学校教育支援、放課後子ども教室では、多種多様な技能を持ち合わせたボランティアバンク「ざおうっ子応援団」の登録者を数多く活用し、子供たちの「学ぶ意欲」向上と、地域住民と子供が繋がる橋渡し役を担うことができた。

活動に携わるボランティアの方々は、自分の知識や特技を生かし、子供たちや地域に必要とされること、感謝されることに大きな喜びと生きがいを感じている。

(2) 課題

家庭教育支援では、子育てサポーターが主体となる能動的な家庭教育支援を実践できるようサポートしていくことが重要だと考える。また、子育てサポーターの活動意欲を維持するための取組も必要になる。家庭教育全般における情報の発信等も今後の課題である。

地域活動支援では、人材の育成と同時にその人材が活躍できる仕組み・枠組みの構築が必要であると、必要課題だけでなく、欲求課題を満たすことが出来る活動を検討していく必要がある。

学校教育支援では、現在依頼するボランティアに偏りがあるため、特定の人材だけが出来る活動ではなくより幅広い人材が活躍できる活動を地域・家庭・学校の連携により考えていく必要がある。さらに、「ざおうっ子応援団」に登録しているボランティアの方々の活動における個人の資質の向上のための研修会を行い、より質の高い支援活動を行っていきたい。

放課後子ども教室は、年間に行っている回数の少なさと開催地域に偏りがある。放課後児童クラブや小学校と連携を取りながら今後の開催地域、時期、内容を考えていきたい。

全体的に見るとどの活動でも各々に課題があるが、共通していることは、現状で満足せず少しずつ変化を加えながら取り組んでいく必要があることだと考える。

蔵王町 蔵王町立宮中学校(総合的な学習の時間)「蔵王を知る研修」

○市町名 蔵王町

○学校名 蔵王町立宮中学校

○期 日 令和5年9月5日(火)

○内 容

総合的な学習の時間(1年)

「蔵王を知る研修」(地域学習)

- ・ふるさと蔵王の雄大な自然に触れ、その素晴らしさを実感し、ふるさとへの関心を高める。
- ・蔵王町の地域資源にどんなものがあるのかを見直し、実際に現地を訪れて調査する。

○講 師

環境政策課(ジオパーク推進室)

主幹兼環境政策係長

兼ジオパーク推進係長

佐藤 良行 氏

地域の事業所の方々

- ・蔵王ハートランド
- ・みやぎ蔵王こけし館
- ・遠刈田温泉神の湯
- ・蔵王町役場
- ・ZAO-BOO
- ・大八精肉店
- ・Togatta Onsen 湯旅屋 蔵王堂



○生徒の声

・今回の地域学習を通して、改めて蔵王町の自然に触れることができました。講師の方のお話を聞き、蔵王町の自然には長い歴史があり、多くの人の努力で守られていることを知りました。蔵王の美しい自然をまだ蔵王に来たことのない人たちにも知ってもらいたいと思いました。



・私たちの班は蔵王の自然について調べることになりました。研修先の蔵王ハートランドが日本でも有数のチーズ工場だということは初めて知りました。チーズの歴史や開発したチーズの種類を聞き、もっと知りたいと興味が湧いてきました。今回聞いたお話を蔵王町PR活動のパンフレット作成に生かしたいと思います。

・私はこの地域学習を通して、蔵王町への関心がさらに深まりました。地域の方のお話を聞き、たくさんの新しい発見がありました。普段疑問に思っていたことに答えてもらったり、知っているつもりで知らなかったことについて知ることができたり、とても良い経験になりました。



- ・この地域学習を通して、蔵王町の温泉には長い歴史があるということを知り驚きました。また遠刈田温泉の「神の湯」という名前が町の人から募集して決まったということや多くの人に愛されていることを知り、これからは大切にしていきたいと思いました。温泉の効能も教えていただいたので、今度ぜひ入ってみたいと思いました。
- ・今回の地域学習でインタビューしたお店では蔵王の資源を活用した製品を販売していて、どの方も蔵王の地域資源を大切にしていることが伝わってきました。創業70年の大八精肉店さんでは蔵王町の特産である里芋を使ったコロッケを作っていてとても美味しかったです。お店でも人気だそうです。
- ・今回の「蔵王を知る研修」では蔵王町の歴史について話を聞くことができました。研修前は「蔵王町に有名な歴史なんてあるのかな?」と思っていましたが、研修では蔵王町でたくさんの土器が見つかった場所やその理由、真田幸村と蔵王町の関わりなどを教えてもらいました。蔵王町にはたくさんの歴史的に価値ある場所があることを知ることもでき、とてもいい経験になりました。



- ・今回の地域調査学習では様々なことを学びました。午後に訪れた蔵王ハートランドのチーズ工場では様々なチーズを開発していて、その中には世界で初めて麴菌を使ったチーズ

もあるということも初めて知りました。開発者の方が「自分の作ったチーズを食べて喜んでくれる人がいるととても嬉しい」と言っていたのがとても印象的でした。

○講師から

子供たちが、自分たちの住む地域の魅力や真の価値を知ることは、意義の大きいことと感じています。

今回の「地域を知る研修」におけるジオパーク学習を通して、これまでおぼろげであった地域の姿を自らの目を見て、体感することで、郷土愛や地域アイデンティティの醸成に寄与できればと思います。



○教職員の声

今年度1学年では、「蔵王町のおすすめ観光コースを作る」をテーマに、地域学習を行いました。蔵王町は観光資源に恵まれた町ですが、住んでいると見えないところも多くあるようでした。この地域学習を通して生徒たちは蔵王町の良さを再発見することができたようです。町の方々にはお忙しい中快くご協力をいただき、本当にありがとうございました。

○教育事務所から

自分たちが住む地域の魅力を、様々な角度から調査したり体感したりした子供たち。中学生の視点を生かしたおすすめ観光コースが、多くの人の心に届くことを期待しています。



蔵王町立円田小学校

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字場の内28
TEL 0224-33-2036 FAX 0224-33-2596

児童数 79名
P会員数 56名

地域と連携した教育活動(地域学校協働活動)

本の読み聞かせ



ボランティアの方による読み聞かせを行い、本に親しんだ。

総合的な学習の時間「円・国・探・緑」



各学年で実施した体験活動を通して、地域のよさを再発見した。

校外活動支援



地域について学ぶ活動で、講師等の支援をいただいた。

子ども安全見守り隊



PTA、地域の方が隊員となり、児童の安全を見守っている。



蔵王町立平沢小学校

〒989-0831 宮城県刈田郡蔵王町大字平沢字台屋敷02
TEL 0224-33-2024 FAX 0224-33-2538

児童数 54名
P会員数 37名

みどりの教育



学校林を活用した交流学習
(柴田農林高校との具校種交流)

ふるさと教育



ふるさと探検
(蔵前り菜による、学区内の史跡・名所巡り)

ことばの教育



学年集会
(学年集会等による表現活動の推進)



蔵王町立永野小学校

〒989-0821 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字北浦16番地
TEL 0224-33-2014 FAX 0224-33-2593

児童数 100名
P会員数 80名



交流活動



高学年による鎌尾区豊深小学校とのオンライン学校間交流、低学年による幼小交流など発達段階に応じた交流活動を行っています。

体験活動



稲作や梨栽培、地域探検そして登山など、地域の特色を活かした体験活動により、ふるさとの特色や良さへ気付く学習を推進しています。

地域ボランティア



読書ボランティアによる読み聞かせ、地域の方を講師とした特別授業など、児童の学ぶ意欲の向上に役立っています。



蔵王町立宮小学校

〒989-0801 宮城県刈田郡蔵王町大字宮字片戸99番地 児童数 191名
電話 0224-32-2004 FAX 0224-32-2008 P会員数 126名

田植え体験



学校近くの田んぼをお借りして、田植え体験を行いました。

朝読書の読み聞かせ



1・2年生に朝読書の時間に様々な本を紹介していただきました。

スキー教室



スキー教室はたくさんの地域の方々からの協力が支えられています。



蔵王町立遠刈田小学校

〒989-0916
宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字小妻坂山25

学校教育目標
「知・徳・体」の調和のとれた
人間性豊かな児童を育成する。

Tel 0224-34-2104 FAX 0224-34-2163
児童数 75名
P会員数 61

トランペット鼓笛隊



運動会や蔵王エコライン開通式、大道芸フェスティバル等で遠小の伝統を披露します。

異校種間交流



中学校を見学することで互いに高め合い、一人一人が充実した中学校生活を目指します。

こけしの学習



こけし館を見学したり、工人の方に教えていただきながら給付け体験をします。



蔵王町立門田中学校

〒989-0831 刈田郡蔵王町大字平沢字伊原沢下23

電話 0224-33-2028 FAX 0224-22-7016
生徒数 109名 P会員数 96名

蔵王全額奉



地域の学び支援ボランティアの力と連携し、地域の施設や蔵王の産業・自然・歴史等について訪問等をおして学びます。

蔵王全額奉



蔵王町教育委員会生涯学習課と各事業所等との協働により、キャリア教育を推進しています。

蔵王全額奉



町農林観光課、地域事業所等と修学旅行先（令和5年度は東京都池袋）と連携し、蔵王町の観光資源や特産物をPRしています。

地域や小・高との連携



地域住民と防犯関係機関、小中高連携による防犯啓発活動を通して、社会の一員としてよりよく生きることの大切さを学びます。



蔵王町立宮中学校

宮中は地域と共に歩み、地域に根ざした学校を目指しています。

〒989-0701 宮城県刈田郡蔵王町宮字馬飼16
生徒数 103名
電話 0224-32-2304 / FAX 0224-22-8022 P会員数 93名



修学旅行 PR活動
町農林観光課、教育委員会、町内事業所と連携し、蔵王町の観光資源の紹介や特産物を販売するなどPR活動を実施。(3年)



樹水めぐり
「地域の自然にふれる」をテーマに、教育委員会、地域関係機関と協働し、すみかわスノーパークで樹水見学会を実施。(2年)



キャリアセミナー
「地域の職業について学ぶ」をテーマに教育委員会、町内事業所と連携し、講師を学校へ招きキャリアセミナーを実施。(2年)



蔵王を知る研修
教育委員会、町内事業所と連携し、ふるさと蔵王の自然・歴史・文化産業について自らテーマを決め、蔵王を知る研修を実施。(1年)



蔵王町立遠刈田中学校

自主 敬愛 活力

〒989-0916 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字小妻坂山16
TEL 0224-34-2203 FAX 0224-35-3139
生徒数 41名
P会員数 38名

生徒全員による遠刈田太鼓



全校生徒が地域の講師から指導を受けて、遠刈田太鼓の練習に取り組む、その成果を「遠中祭」で保護者の方々に披露しています。

修学旅行 ふるさとPR活動



役場や温泉旅館の方々の協力をいただき、修学旅行先の東京で蔵王町と遠刈田温泉の素晴らしさを伝える活動を行っています。

蔵王の自然 体験学習



登山、スキー、樹水見学、地層学習など、蔵王の自然を体験する活動を「ざおうっ子応援団」による地域支援を受けて実施しています。

多彩なゲストティーチャー



オリンピック、琴、書写、人権、食育など様々な分野の外部講師を招き、ご指導をいただくことで、貴重な学びを実現しています。